

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

米国大統領選で大方の予測を裏切りトランプ候補が勝利したことで相場の大きな流れが変わったようです。

当初は「トランプ・ショック」で101円20銭までドル安が進んだものの、その後はトランプ次期大統領の掲げる大型減税や財政出動・規制緩和といった政策に対する期待が高まり、米国株は新高値を更新、米長期金利は急上昇し、ドルも全面高となって「トランプ・ラリー」に変化しました。

【ドル/円 週足】



12月1日には、OPEC総会での減産合意を受けた原油高・株高・米国債利回り上昇を背景に今年2月以来となる114円83銭まで上昇し、大統領戦後わずか3週間強で上昇率は13%を超えるものとなりました。

この上昇により年初から続いてきたドル安・円高は終了したことが確認されたといえるでしょう。注目していた長期の趨勢を占う52週移動平均もクリアーに上抜けてきており、次の注目は当面ドルの下値は限られたものとなりそうです。

ただし、この急激なドルの上昇は積み上がった円ロングポジションの巻き戻しによるものであり、現状の経済実態からは、ここから大きく円ショートポジションを積み上げていくには、新たな材料が必要になるものと思われます。

「トランプノミクス」に対する期待が米国の長期金利を押し上げている間は、ドルは底堅く推移すると思われますが、本格的なドル上昇トレンドが再開し、120円超えを試しに行く相場となるかどうかは、もうしばらく相場の動向を見極める必要があるのかもしれない。

ドル/円相場のトレード戦略

■ 短期展望

先週は、OPEC 総会での減産合意を受けた原油高・株高・米国債利回り上昇がドルを持ち上げる要因となり、一時 114 円 83 銭の高値をつけました。

しかし、これまでの急激なドル高・円安に達成感も強まってきており、金曜日に発表された米国 11 月の雇用統計で平均賃金が予想を下回ったことをきっかけに、113 円前半まで反落して週末の取引を終えています。

今週も、ドル高基調に変化はなく、利上げが予想される米 FOMC を前にドルの下値は限られた動きとなるでしょう。

ただし、これまでのドル高を主導してきたドルショートポジションの買戻しは一巡しており、節目である 115 円を上抜くにはやや材料不足となっています。

そのため、当面は 112 円～115 円程度のレンジ相場を形成し、神経質な取引が続きそうです。